



全ての働く人々に安全・健康を
～Safe Work, Safe Life～

特別民間法人
中央労働災害防止協会
<https://www.jisha.or.jp/>

わたしたち中災防は、明日の安全衛生を考え、 事業場の安全・健康・快適職場づくりを応援します。

ご挨拶

中災防は、1964年の設立から半世紀以上にわたり、国や産業界との緊密な連携のもと、労働安全衛生水準向上の推進役として、安全衛生活動に係る技術サービス、研修・セミナー、情報発信等を展開してまいりました。また、全国規模の経済団体、各種業界団体、業種別の労働災害防止団体、各都道府県の労働基準協会等を会員とし、わが国のすべての産業に対して企業経営における「安全第一」を強く訴え、その啓発と実現に努めてまいりました。

そのような中で、わが国における労働災害発生件数は、関係者のたゆまぬ努力により長期的には減少してきておりますが、産業構造の急速な変化や雇用形態の多様化、職場の高齢化等が進む中で、新たな安全衛生上の課題も顕在化してきたところです。

こうした状況を受け、政府の「第14次労働災害防止計画」（2023～2027年度）では、少しでも労働災害発生件数を減少させ、誰もが安全で健康に働くことが出来る職場環境の実現に向けて、就業構造の変化および働き方の多様化に対応した対策等が重点事項として挙げられています。

これらの課題解決に向けては、経営トップの強いリーダーシップの下、現場の安全衛生意識の高揚および安全衛生管理体制の確立等を通じた現場対応力の強化を柱として、自主的な安全衛生活動の充実に最大限の努力を注ぐことが不可欠です。

中災防といたしましても、わが国の安全衛生水準の向上という社会的使命を果たすべく、長年培ってきたノウハウや専門性を最大限に生かして企業ニーズに即した各種サービスを提供していくほか、政府、安全衛生関係機関、業界団体等と従来以上に連携・協力し、活動をより一層強化してまいります。

今後とも引き続き、当会へのご理解とご協力を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

筒井 義信

中央労働災害防止協会（中災防）は、働く人々の安全と健康を守るため、事業主が行う安全衛生活動を支援し、労働災害の防止に寄与する労働安全衛生に関する専門家集団です。

中災防は、1964年に労働災害防止団体法に基づき、労働安全衛生に関する中心的な団体として誕生し、2000年には、国の行政改革によって、公共的使命の下、財政的に自立した上で、公益と収益のバランスを取りながら自らが持続的に成長し続ける「特別民間法人」として生まれ変わりました。

設立より半世紀以上にわたり、国の施策と事業場をつなぐ橋渡し役として安全衛生に係るさまざまなサービスを展開し、安全で健康かつ快適な職場づくりを支援しております。

近年では、価値観の多様化、高齢労働者の増加や人手不足の深刻化など、働く職場の環境や働き方が大きく変化しています。それにともない安全衛生法令や規則の改正も行われ、さらなる自主的な安全衛生管理体制の強化が求められています。

中災防では、これらの状況を踏まえ、よりタイムリーかつ積極的に労働安全衛生に関する動向を捉え、労働災害の防止に向け高い使命感を持って、サービスに創意工夫を重ね、働く人々や事業主の方々、学生や研究者の皆さまなど全てのステークホルダーの安全衛生活動、さらにはわが国の安全衛生水準の向上にお役に立てるよう努力してまいります。



中央労働災害防止協会
ついでよしのぶ
会長 筒井 義信



中央労働災害防止協会
たけごし とおる
理事長 竹越 徹

経営理念

目 標

全ての働く人々に安全・健康を
～ Safe Work, Safe Life ～

理念・価値観

- 社会ルールの遵守
- 職場の安全・健康を
リード／バックアップ
- きめの細かいサポート
- 率先と成長

行動指針

- コンプライアンスの徹底の下、公正に、かつ高い倫理観をもって活動します
- 安全衛生の専門家集団・中心的団体としての情熱・誇りを胸に、力強く取り組みます
- 高い技術力・総合力を発揮し、スピーディに応えます
- 自己研鑽やステークホルダーとの連携に取り組みます

事業場の活動をサポートする3本柱

中災防は、職場のリスクアセスメント、労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）、ゼロ災運動、心とからだの健康づくりなどを、「専門技術を駆使した**技術サービス**」「安全衛生に関する多種多様な**研修・セミナー**」「最新かつ確かな**情報発信**」を3本柱に、事業場の安全衛生活動を総合的にサポートします。

安全・健康・快適な 職場の実現

CSR、生産性向上、品質向上、
コストダウン、顧客満足度、労働意欲向上等

安全衛生水準向上・労働災害防止

自主的安全衛生活動

リスクアセスメント・OSHMS、危険予知訓練、健康づくり・メンタルヘルスケア、安全パトロール、作業環境管理 など

技術サービス

ISO45001・リスクアセスメント・OSHMS、機械安全、ゼロ災運動・KY（危険予知）、安全行動調査、安全衛生診断、作業環境測定、健康づくり・メンタルヘルスケア、化学物質管理、化学物質のリスクアセスメントなど、安全衛生に関する技術的サポートを実施します。

▶ 4～7ページ

研修・セミナー

経営トップ、管理・監督者、安全・衛生管理者、職長、作業員等を対象に、テーマや階層別に多様な安全衛生教育研修を実施します。

▶ 8～10ページ

情報発信

全国産業安全衛生大会の開催、ホームページ、月刊誌・かべしんぶん、安全衛生図書・用品などを通じて、安全衛生に関する最新情報を提供します。

▶ 11、12ページ

技術サービス

労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)、
リスクアセスメント、機械の安全化など
導入から運用までをサポートします。

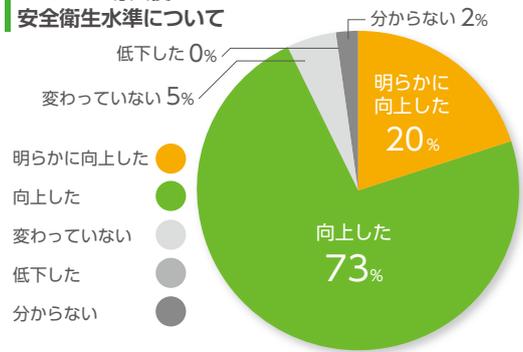


職場の潜在的なリスクを摘み取り、安全衛生水準の向上を図ります

自主的に職場の潜在的な危険性や有害性を見つけ出し、事前に的確な対策を講ずるリスクアセスメントの実施、機械安全の推進、PDCAにより安全衛生の水準を向上させながら継続的に安全衛生管理を進めていく労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の導入・運用を担う人材養成を行うとともに、事業場での研修や情報提供等の支援を行います。

OSHMSの国際規格であるISO45001の導入から実践まで、ステップに応じた支援も行っています。

OSHMS導入後の安全衛生水準について



「安全衛生マネジメントシステム審査センター」は、公正中立で、独立した組織として OSHMS の第三者認証を実施します

ISO (JIS Q) 45001 認証

国際通用性を持つ国際規格「ISO45001」の要求事項に基づく認証審査、さらに労働災害防止効果の高い日本版マネジメント規格(JIS Q 45100)の認証審査も実施します。

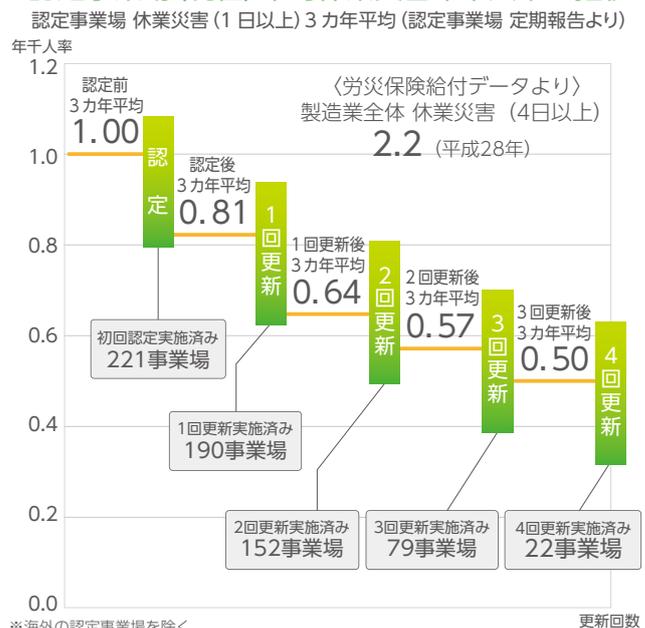
JISHA方式適格OSHMS認証

厚生労働省のOSHMS指針とILO(国際労働機関)のガイドラインに沿った、中災防独自のJISHA方式適格OSHMS基準による認証審査を実施。事業場における安全衛生活動のレベルアップにつながる好事例なども紹介しています。

第三者認証を受けるメリット

- 企業イメージが向上し、自社の安全衛生管理に自信が持て、社員の安全意識等が高まります。
- 認証審査を通じて、改善点に気づくことで安全衛生管理の有効性が高まります。

JISHA方式適格OSHMS認定 認定事業場(現在)平均休業災害年千人率の推移



JISHA方式の認証効果

認証事業場の休業年千人率は、4回目の更新を迎えた事業場で製造業全体の約1/4です。認証更新を続けることでさらに安全衛生の成績が向上していることが分かります。

技術サービス

ゼロ災運動、ヒューマンエラー防止、
作業環境改善など

ゼロ災職場実現をサポートします。



ゼロ災運動導入・展開のお手伝いをします

人間尊重の理念に基づき、全員参加で安全衛生を先取りし、ゼロ災害、ゼロ疾病を目指すゼロ災害全員参加運動（ゼロ災運動）を、各種研修会、講師派遣等を通じて支援します。

ヒューマンエラー防止のために! 「安全行動調査」

「安全行動調査」は、日常の行動に関する78の質問に「はい、いいえ」で答えることでその時点での回答者の「エラー傾向」「パーソナリティー傾向」が把握でき、一人ひとりの「気づき」を促します。調査結果は不安全行動による災害防止など、事業場のさまざまな安全衛生活動に活用されています。



安全行動調査の個人プロフィール（例）

危険箇所を洗い出し、改善策を提案

安全管理士、衛生管理士など安全衛生の専門家が事業場に伺い、職場を回りながら機械設備や作業方法などについて、問題点の指摘や改善に必要なサービスの提案を行います。診断結果は後日、現場写真を多用した分かりやすい報告書にまとめて提出します。



作業内容・方法等を聞き取りながら



具体的な改善方法等も提示します

進めます

作業環境測定を通じ作業環境改善につなげます

地区安全衛生サービスセンターおよび大阪労働衛生総合センターの作業環境測定士が事業場に伺い、粉じん、有機溶剤、特定化学物質など法令で定められた有害物質を測定するほか、作業場の騒音などについて作業環境測定を実施します。測定結果は報告書にまとめて、改善措置を提案します。



塗装作業場の作業環境測定
(有機溶剤)



発煙管による気流のチェック
(塗装ブース)

働く人の心とからだの健康づくりをバックアップします。



心とからだの健康づくり

中災防では、心とからだの健康と安全作業を確保する「心とからだリフレッシュ運動」（愛称：げんき de ワーク）を推進。現場レベルで手軽に行える活動として、「ウォーキング」「コミュニケーション」「健康体操」の3つを奨励しています。

事業場の健康教育・メンタルヘルス研修などを、豊富な経験を持つ講師派遣を通じてトータルサポートします。

長年の実績を生かした中災防ストレスチェックサービス

2002年から「中災防ストレスチェックサービス（ヘルスアドバイスサービス）」を開始し、年間30万人以上の実績があります。

ストレスチェック実施からその後の結果説明、職場環境の評価・改善、社内研修の実施（講師派遣事業）まで、企業のストレスチェックの実施を総合的にサポートします。

あなたのストレスプロフィール

あなたのストレスプロフィールは、あなたのストレス反応を測定し、その結果に基づいて、心とからだの健康づくりを支援するためのツールです。

1 心とからだにあらわれたストレス反応へのアドバイス
心身のストレス反応は、心身の健康を低下させ、ストレスの原因を特定し、適切な対応策を講ずることが重要です。

2 ストレスの要因についてのアドバイス
ストレスの原因は、多くの場合、仕事上のストレスに由来しています。ストレスの原因を特定し、適切な対応策を講ずることが重要です。

3 コミュニケーションについてのアドバイス
コミュニケーションは、ストレスの原因を特定し、適切な対応策を講ずることが重要です。

ストレスチェックの個人レポート（例）

選択できる2種類のストレスチェックサービス

チェックシート（紙）によるサービスと、Webによるサービスの2種類を用意。

サービスの 特徴

- 少人数から多人数まで、事業場に合わせたお申し込みが可能。
- 指定のグループで集団集計が可能。
- 結果を用いた社内研修（職場環境改善、ラインケア、セルフケア）に、経験豊富な講師を派遣。

化学物質の管理やリスクアセスメントを総合的にサポートします。



化学物質等の分析

特殊健康診断やばく露評価に必要な尿中、血液中、毛髪中の化学物質または代謝物の分析ほか、レアメタルや石綿（アスベスト）等空気中の濃度の測定・分析を行っています。

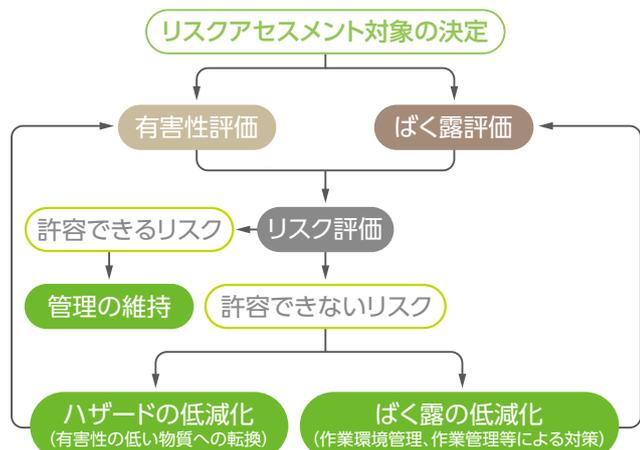
未規制物質等の分析手法の開発と、それに伴う分析も行っています。

受託分析項目

- 生体試料中の分析：金属類（インジウム、コバルト等）、代謝物（馬尿酸、メチル馬尿酸、マンデル酸、ナフトール、MBOCA等）
- 非生体試料分析：金属類（ヒ素、クロム等）、有機溶剤、石綿（アスベスト）、その他（エチレンオキシド等）

化学物質等のリスクアセスメント

定量的リスクアセスメントに有用な個人ばく露測定の実施、その他化学物質等のリスクアセスメント手法に関する指導・研修を行っています。

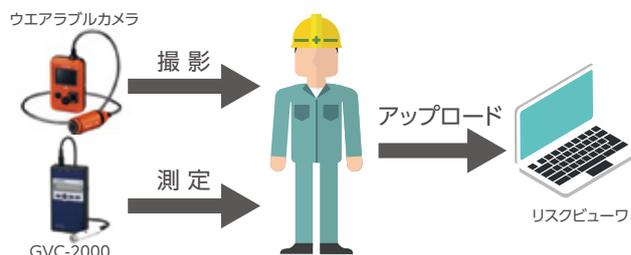


化学物質等のリスクアセスメント支援サービスにおける受託内容の例

- ばく露評価サービス（定量的リスクアセスメント）
個人ばく露測定と評価、数理モデルを用いたばく露濃度の推定と評価
- リスクアセスメント実施支援サービス
指導・研修等によるリスクアセスメント手法支援（半定量的手法、定量的リスクアセスメント手法指導等）、ばく露低減措置等リスク管理の提案等、化学物質管理に関する社内教育支援（オリジナル研修等の実施）

VEM（Video Exposure Monitoring）サービス

「VEM サービス」は作業者にモニタリング装置（有害物測定）とウェアラブルカメラを装着し、作業の映像とモニタリング装置による測定データを同期再生させるシステムを用いています。「見える化」で作業とばく露の程度を明確にし、リスクアセスメントや作業改善、作業環境改善等に役立てていただけます。



階層や分野別に、安全・健康を担う人材養成をサポートします。



経営トップ層、管理・監督者、安全衛生スタッフ向け

職場に安全衛生活動を定着させるためには、まずは経営トップ自らが安全衛生への姿勢を示すことが重要です。また、経営トップの意志を組織で展開させる管理・監督者、高い専門知識を備えたスタッフの養成が必要です。

企業トップがリーダーシップを発揮するために必要なスキルを引き出し、またラインの管理・監督者、安全衛生スタッフの能力向上や意識をより高めるための安全衛生教育メニューを、豊富に用意しています。



リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS)、ISO45001、機械安全

事業場においてリスクアセスメントの実施、リスクアセスメントを柱とする労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) を構築・実施するための担当者等を対象に研修会を開催しています。さらに、OSHMS の国際規格である ISO45001 の構築・実施に向けた研修会も実施しています。

また、設計技術者や生産技術管理者向けの機械安全に関する研修も開催しています。

職場風土づくりのゼロ災運動研修

「カケガエノナイ一人ひとりを、だれ一人ケガをさせない」という人間尊重の理念に基づき、短時間の危険予知 (KY) ミーティング、指差し呼称などの手法を活用して、安全を先取りする明るくイキイキとした職場風土をつくるために、経営者、管理・監督者、安全衛生スタッフ、職場リーダーの階層別に各種研修を開催しています。



研修・セミナー

法令に基づく研修を含め、多彩な教育メニューをご用意しています。



健康づくり・メンタルヘルス

「健康づくり推進スタッフ養成研修」「事業場内メンタルヘルス推進担当者養成研修」「心理相談専門研修」など、事業場の健康づくりやメンタルヘルスを推進するための研修会を開催しています。毎年、全国で約 6,000 人が受講されています。



化学物質管理

化学物質の管理や化学物質を取り扱う人材の育成、専門性の高い化学物質におけるリスクアセスメントの実務を本格的に構築・実施するためのコースなど、各種研修を開催しています。

法令に基づく研修

労働安全衛生法令・通達で規定されている安全衛生教育について、主に各地区安全衛生サービスセンターで開催しています。

事業場のニーズに応じて
きめ細かな安全衛生教育を提供します。



オーダーメイドで安全衛生教育を支援

経験豊かな安全衛生専門家が事業場に伺い、ニーズに合わせた講義や演習を盛り込んだオーダーメイド型教育を行うとともに、社内教育等における講演も行います。

オーダーメイド型教育・講演の実施例

- 個別事業場指導
- 安全衛生配慮義務
- 新入者安全衛生教育
- ヒューマンエラー防止対策
- リスクアセスメント実践教育
- 健康づくり・メンタルヘルス

各地区安全衛生サービスセンターで多数の研修を開催

各安全衛生サービスセンターでは、安全衛生スタッフ、ライン管理者等を対象に、安全衛生の基本知識や最新の安全衛生に係る現状と対策についての知識・情報を提供するための各種セミナー・研修会を企画・開催しています。

安全衛生教育指導者を養成

東京と大阪にある安全衛生教育センターは、宿泊型の研修施設で、安全衛生教育のためのトレーナー、インストラクター等の養成、安全衛生担当者の資質向上のための各種講座を実施しています。各講座の修了者は、両教育センター合わせて28万人を超えています。



東京安全衛生教育センター



大阪安全衛生教育センター

働く人の安全と健康をテーマに最新情報を発信！

「全国産業安全衛生大会」と「緑十字展」



1万人が参加する「全国産業安全衛生大会」

1932年の第1回開催以来、経営者、産業安全・労働衛生スタッフ、管理・監督者、産業保健スタッフ、大学等の教育機関など、「働く人の安全と健康づくり」に携わる人々が参集する国内最大の安全衛生イベントとして毎年開催。講演、シンポジウム、パネルディスカッション、分科会での事例発表など多彩なプログラムを用意し、安全衛生活動について「他流から学ぶ」絶好の機会となっています。



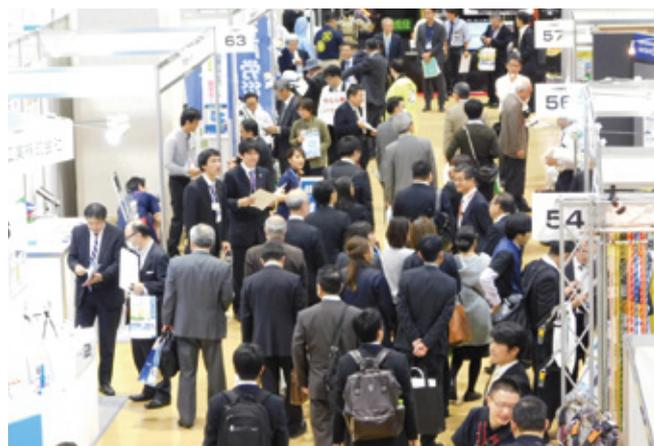
総合集会



分科会

安全衛生分野最大の展示会「緑十字展」

1968年に第1回が開催されて以来、半世紀にわたって発展を続け、各種製造業をはじめ建設、通信、運輸、サービス、医療・介護など、あらゆる職場の「安全・健康・快適」にかかわる技術や情報を提供する安全衛生分野ではわが国最大の展示会で、全国産業安全衛生大会と同時開催しています。職場の安全衛生向上、労働災害の防止、働く人の心身両面にわたる健康で快適な職場環境づくりなどに、ぜひお役立てください。



最新の安全衛生情報を発信して、 職場の安全衛生活動を支援

多様な定期刊行物、安全衛生図書・用品をラインアップ

月刊誌等の記事を通じ、最新の安全衛生情報を定期的に発信しています。また、法定教育のテキストとともに、ヒューマンエラーやメンタルヘルス、リスクアセスメントのほか、働き方改革、両立支援等の職場における喫緊の課題をテーマにした図書・小冊子、安全衛生意識の高揚に役立つポスター、安全衛生旗、ゼロ災のぼりなどを制作、販売しています。



中災防は、「全国安全週間」「全国労働衛生週間」「年末年始無災害運動」「安全衛生教育促進運動」「化学物質管理強調月間」などのキャンペーンを主唱し、事業場と一体となって安全衛生意識の高揚に取り組んでいます。

ホームページ、メールマガジンも充実

中災防ホームページ (<https://www.jisha.or.jp/>) では、各地で開催の研修会案内やサービスなど、中災防の事業に関して詳細に記しています。また、特設サイトを豊富に展開し、最新の安全衛生関連情報を提供しています。無料でメールマガジンを配信しています。ホームページからも簡単に登録できますので、ぜひご利用ください。

時代に対応した調査・研究を実施

企業が直面する産業構造、就業形態の変化など環境の変化に対応した安全衛生管理の最新の実態やあり方、労働者の健康障害防止、化学物質のばく露実態の把握等について、調査研究を実施・公表しています。

グローバル化に応える国際関係事業

開発途上国の政府や労働安全衛生団体の担当者等を対象に安全衛生に関する技術研修を行っています。また、海外進出企業に対し、安全衛生担当者等を対象に研修を実施するなどの支援を行っています。さらに、国内向けに欧米・アジア諸国の最新の安全衛生情報を、日本語にてホームページで提供しています。



中小企業の安全衛生水準向上をバックアップします

中小規模事業場安全衛生サポート事業（無料）

労働者がおおむね100人未満の製造業、第三次産業、鉱業の中小規模事業場に対し、安全衛生の専門家による集団支援（集合研修）、個別支援（現場確認とアドバイス）をそれぞれ無料で実施。

中小規模事業場安全衛生相談窓口（無料）

中小規模事業場等の労働災害防止のため、事業場が抱える課題・問題・悩み等の解決を手助けする窓口を全国に設け、事業場の安全衛生活動を全力でサポートしています。

中小規模事業場労働安全衛生評価事業（愛称：JISHA グッド・セーフティ・カンパニー）

中小規模事業場の安全衛生活動基盤を、10項目で評価します。比較的安価で簡便に自社の安全衛生活動レベルが分かります。

中小企業無災害記録証授与制度の実施

中小企業が自主的に安全衛生活動を進める上で目標となるよう、「中小企業無災害記録証授与制度」を設けています。

全国的な会員ネットワーク

会員料金での教育研修、専門技術サービス

各種安全衛生セミナー・研修会、安全衛生診断などの専門技術サービスが、会員料金でご利用いただけます。

会員・賛助会員専用サイト（会員タウン）

安全衛生 Web 通信、海外安全衛生トピックス、KYT シート、4コママンガ、イラスト集等のコンテンツを利用いただけます。

「全国産業安全衛生大会」へのご優待

加入口数に応じて、参加費をご優待します。

定期刊行物、キャンペーンポスター、安全衛生図書・用品等の配布

安全衛生に関するタイムリーな情報が満載の月刊誌（2種類）ほか、全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動時に「安全の指標」等の書籍やキャンペーンポスター等の用品をお届けします。

会員専用の相談フリーダイヤル

フリーダイヤルの「安全衛生ホットライン」を設置し、安全衛生に関するご質問・ご相談に対して専門の相談員がお答えします。

中央労働災害防止協会会員組織（2025.4.1現在）

労働災害防止協会 (1号会員)	4団体	全国的な事業主団体 (2号会員)	64団体	地域別安全衛生推進団体 (3号会員)	48団体
その他の労働災害防止団体 (4号会員)	23団体	賛助会員	5,400事業場		

沿革

～主なあゆみ～

- 1950年 全日本産業安全連合会（全安連）設立
- 1959年 全日本労働衛生協会（全衛協）設立
- 1964年
 - 「労働災害防止団体等に関する法律」（現：労働災害防止団体法）公布
 - 中央労働災害防止協会設立（全安連と全衛協の事業の多くを引き継ぐとともに、広報活動、教育活動、管理士活動、調査研究活動を展開）
 - 安全管理士活動を開始
 - 「安全」「労働衛生」（現：安全と健康）、「安全のひろば」（現：安全衛生のひろば）等、定期刊行物の発刊開始
- 1965年
 - 安全衛生旗を制定
 - 衛生管理士活動を開始
 - 「全国安全週間」の主唱開始
 - 「全国労働衛生週間」の主唱開始
- 1967年
 - 全国産業安全衛生大会（労働基準法 20 周年を記念した初の安全・衛生の合同大会）開催（東京）
 - 最初の地区安全衛生サービスセンターとして中部安全衛生サービスセンター（名古屋）を開設
- 1968年 緑十字展開催
- 1971年 第 1 回「年末年始無災害運動」を実施
- 1973年
 - 「ゼロ災害全員参加運動」を提唱
 - 安全衛生教育センター（東京）開所
- 1975年 労働衛生検査センター開設（2000 年に労働衛生調査分析センターへ改組）
- 1977年 全国安全週間 50 回記念中央大会を開催
- 1979年 シルバー・ヘルス・プラン（SHP）事業開始
- 1986年 中災防が「企業におけるストレス対応のための指針」を発表
- 1988年
 - トータル・ヘルスプロモーション・プラン（THP、心とからだの健康づくり運動）の普及促進を開始
 - 大阪労働衛生総合センター開所
- 1992年 快適職場形成促進事業を開始
- 1999年 労働安全衛生マネジメントシステムの普及促進事業を開始
- 2000年 民間法人化
- 2003年
 - JISHA 方式適格 OSHMS 認定事業を開始
 - 事業場の石綿ばく露防止対策に関する相談窓口を設置
- 2013年
 - 中小企業安全衛生評価事業（JISHA グッド・セーフティ・カンパニー）を開始
 - 中小規模事業場安全衛生サポート事業を開始
- 2014年
 - 「安全衛生教育促進運動」を全国展開
 - 中災防創立 50 周年記念事業を実施
- 2020年 日本版労働安全衛生マネジメント規格（JIS Q 45100） 国内初の JAB 認定取得
- 2021年 「第 80 回 全国産業安全衛生大会」「緑十字展 2021」「APOSHO35」同時開催
- 2023年 ゼロ災運動 50 周年記念事業を実施
- 2024年 中災防創立 60 周年記念誌を制作
- 2025年 「第 1 回化学物質管理強調月間」を実施

問い合わせ先

〒108-0014 東京都港区芝5-35-2 安全衛生総合会館 6, 8, 9, 10階

〒108-0023 東京都港区芝浦3-17-12 吾妻ビル9階

教育ゼロ災推進部

- ▶ セミナー、調査研究、中小企業無災害記録証
TEL : 03-3452-6257・6499 E-mail : kyoiku@jisha.or.jp
- ▶ ゼロ災運動・KY(危険予知)
TEL : 03-3452-6259 E-mail : zerosai@jisha.or.jp
- ▶ 全国産業安全衛生大会・緑十字展
TEL : 03-3452-6402 E-mail : taikai@jisha.or.jp
- ▶ 賛助会員
TEL : 03-3452-6049 E-mail : kaiin@jisha.or.jp

技術支援部

- ▶ リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)、中小規模事業場労働安全衛生評価事業、安全行動調査
TEL : 03-3452-6404 E-mail : ms@jisha.or.jp
- ▶ 機械安全、中小規模事業場安全衛生サポート事業
TEL : 03-3452-6375 E-mail : sidouka@jisha.or.jp
- ▶ 海外情報・国際協力
TEL : 03-3452-6297 E-mail : kokusai@jisha.or.jp

健康快適推進部

- ▶ 健康づくり・メンタルヘルス、ヘルスアドバイスサービス
TEL : 03-3452-2517 E-mail : kenko@jisha.or.jp

労働衛生調査分析センター

- ▶ 化学物質管理、化学物質等の分析、化学物質のリスクアセスメント
TEL : 03-3452-3976 E-mail : eiseise@jisha.or.jp

安全衛生マネジメントシステム審査センター

- ▶ ISO45001/JIS Q 45100、JISHA 方式適格 OSHMS 認証
TEL : 03-3452-6694 E-mail : jisha-ms@jisha.or.jp

出版事業部

- ▶ 図書・用品・ポスター
TEL : 03-3452-6401 E-mail : jigyou@jisha.or.jp

地区安全衛生サービスセンター ～安全衛生の身近なパートナー

北海道安全衛生サービスセンター

〒064-0919 札幌市中央区南19条西9丁目2-25
TEL : 011-512-2031 E-mail : hokkaido@jisha.or.jp

東北安全衛生サービスセンター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-3-34
TEL : 022-261-2821 E-mail : tohoku@jisha.or.jp

関東安全衛生サービスセンター

〒108-0023 東京都港区芝浦3-7-12 シグマビル1階
TEL : 03-5484-6701 E-mail : kanto@jisha.or.jp

中部安全衛生サービスセンター

〒456-0035 名古屋市熱田区白鳥1-4-19
TEL : 052-682-1731 E-mail : chubu@jisha.or.jp

中部安全衛生サービスセンター 北陸支所

〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま9階
TEL : 076-441-6420 E-mail : hokuriku@jisha.or.jp

近畿・大阪安全衛生総合サービスセンター

〒550-0001 大阪市西区土佐堀2-3-8
TEL : 06-6448-3450 E-mail : kinki@jisha.or.jp

中国四国安全衛生サービスセンター

〒733-0003 広島市西区三篠町3-25-30
TEL : 082-238-4707 E-mail : chushiko@jisha.or.jp

中国四国安全衛生サービスセンター 四国支所

〒760-0017 高松市番町3-3-17 第1讃機ビル2階 北側
TEL : 087-861-8999 E-mail : shikoku@jisha.or.jp

九州安全衛生サービスセンター

〒812-0008 福岡市博多区東光2-16-14
TEL : 092-437-1664 E-mail : kyushu@jisha.or.jp

東京安全衛生教育センター

〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-4-6
TEL : 042-491-6920 E-mail : tkyoiku@jisha.or.jp

大阪安全衛生教育センター

〒586-0052 大阪府河内長野市河合寺423-6
TEL : 0721-65-1821 E-mail : okyoiku@jisha.or.jp

代表WEBサイトを全面リニューアルしました



デザインやページ構成を一新するとともに、検索機能を強化しました。
新しくなった中災防代表 WEB サイトをぜひご覧ください。
<https://www.jisha.or.jp/>



